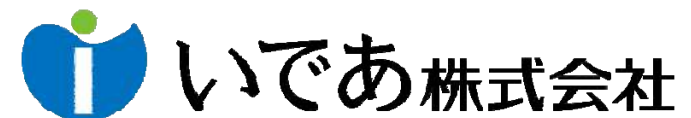


証券コード：9768



2019年12月期 決算説明会



2020年3月3日

<https://ideacon.jp/>

本資料は、当社の評価を行うための参考となる情報提供のみを目的としたものです。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願い致します。投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承ください。

当資料に掲載されている予想数値あるいは将来に関する記述の部分は、資料作成時の判断ですが、その内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。予想数値等は、今後の経済情勢等により、修正を行うことがあります。

<目 次>

- 1. 当社グループの紹介**
- 2. 2019年12月期決算のポイント**
- 3. 2020年12月期の計画**
- 4. 第4次中期経営計画について**

< 1. 当社グループの紹介 >

1-1. 当社及び当社グループの概要

1-2. 事業概要の紹介(ビデオにて紹介) 

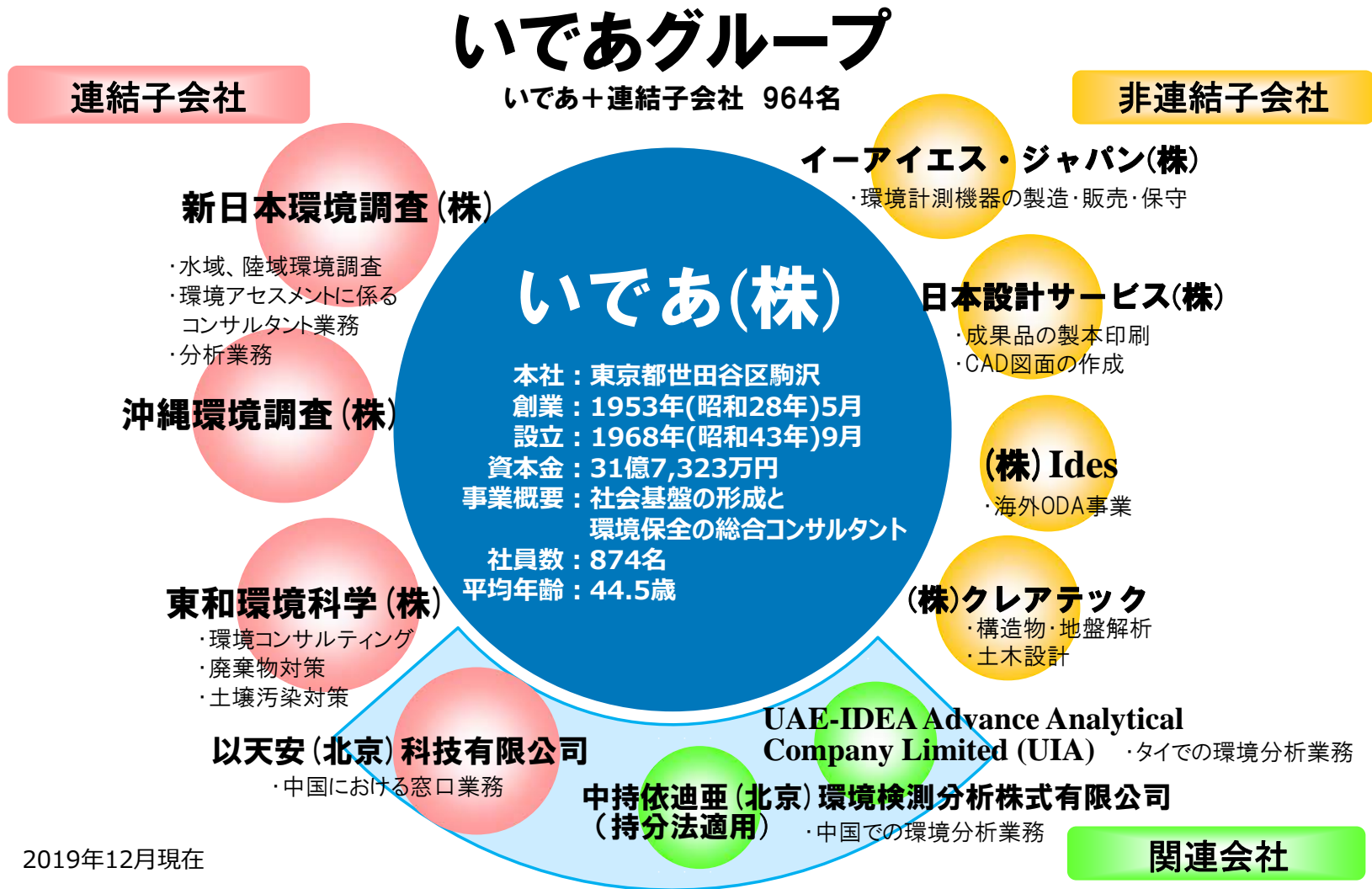
1-3. 当社のポジショニング

1-4. 主要顧客の概要

1-5. 受注形態別受注高(単体)の推移

1-6. いであの強み

1-1. 当社及び当社グループの概要



1-2. 事業概要の紹介

◆ビデオにてご紹介いたします



環境コンサルタント事業

環境調査 環境化学分析 環境評価
環境計画 自然環境の
保全・再生・創造 気象情報の
提供・配信

建設コンサルタント事業

河川・海岸の整備・保全 港湾の整備・保全 道路・橋梁の整備・保全

情報システム事業

システム開発・設計・構築 基幹システム運用支援

海外事業

インフラマネジメント 環境保全・創出

1-3. 当社のポジショニング

◆ 建設コンサルタント会社中の売上高順位は10位

◆ 「建設環境分野」の売上高順位は1位をキープ

カッコ内売上高（億円）

順位	建設コンサルタント部門全体	順位	建設環境分野	港湾、空港分野	河川、砂防、 海岸・海洋分野	災害復旧業務
1	日本工営 (504)	1	いであ (98)	日本工営 (45)	建設技術研究所 (140)	建設技術研究所 (36)
2	パシフィックコンサルタンツ (463)	2	建設環境研究所 (46)	パシフィックコンサルタンツ (42)	日本工営 (105)	いであ (30)
3	建設技術研究所 (351)	3	日本工営 (35)	日本港湾コンサルタント (21)	パシフィックコンサルタンツ (61)	オオバ (30)
4	JR東日本コンサルタンツ (210)	4	パシフィックコンサルタンツ (34)	エコー (21)	八千代エンジニアリング (48)	パシフィックコンサルタンツ (29)
5	オリエンタルコンサルタンツ (210)	5	環境総合テクノス (31)	ニュージエック (15)	東京建設コンサルタント (45)	日本工営 (29)
6	八千代エンジニアリング (206)	6	エヌエス環境 (21)	日本海洋コンサルタント (11)	国際航業 (39)	国際航業 (23)
7	オリエンタルコンサルタンツグローバル (186)	7	アジア航測 (19)	八千代エンジニアリング (10)	三井共同建設コンサルタント (32)	パスコ (11)
8	日水コン (178)	8	建設技術研究所 (18)	三井共同建設コンサルタント (10)	ドーコン (31)	オリエンタルコンサルタンツ (9)
9	エイト日本技術開発 (176)	9	応用地質 (17)	いであ (9)	日本振興 (30)	第一復建 (8)
10	いであ (173)	10	オリエンタルコンサルタンツ (16)	エイト日本技術開発 (8)	ニュージエック (30)	国土防災技術 (7)
11		11			いであ (29)	

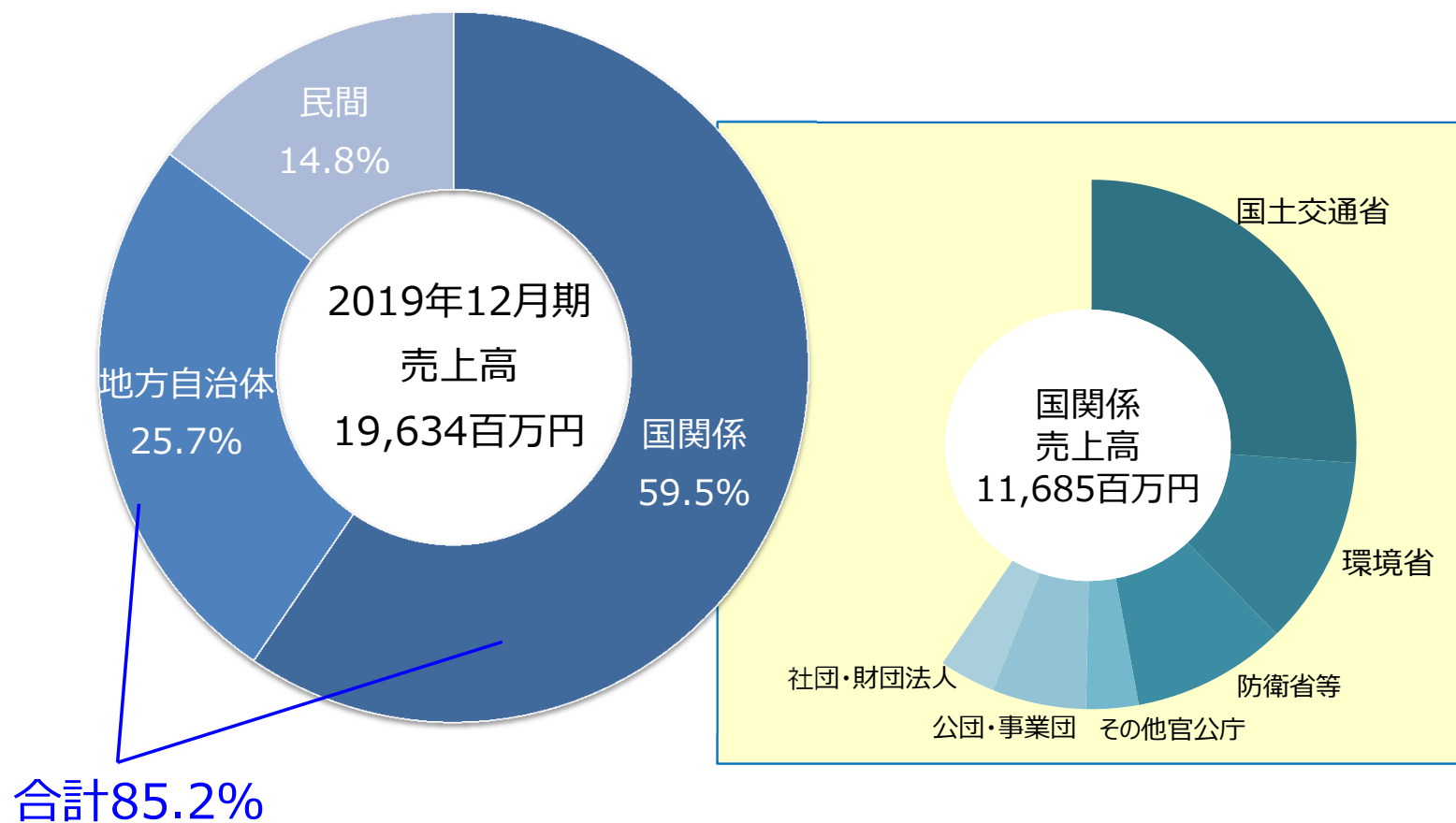
出典) 日経コンストラクション(2019.4.22)「建設コンサルタント決算ランキング2019」

注1) いであ(株)単体のデータを提供。

2) データは2018年12月期。建設コンサルタント部門売上高 17,306百万円, 全体売上高 17,758百万円

1-4. 主要顧客の概要

- ◆ 「国関係」は約60%、「地方自治体」が約26%
- ◆ 「国・地方自治体」で約85%、残り約15%が「民間」

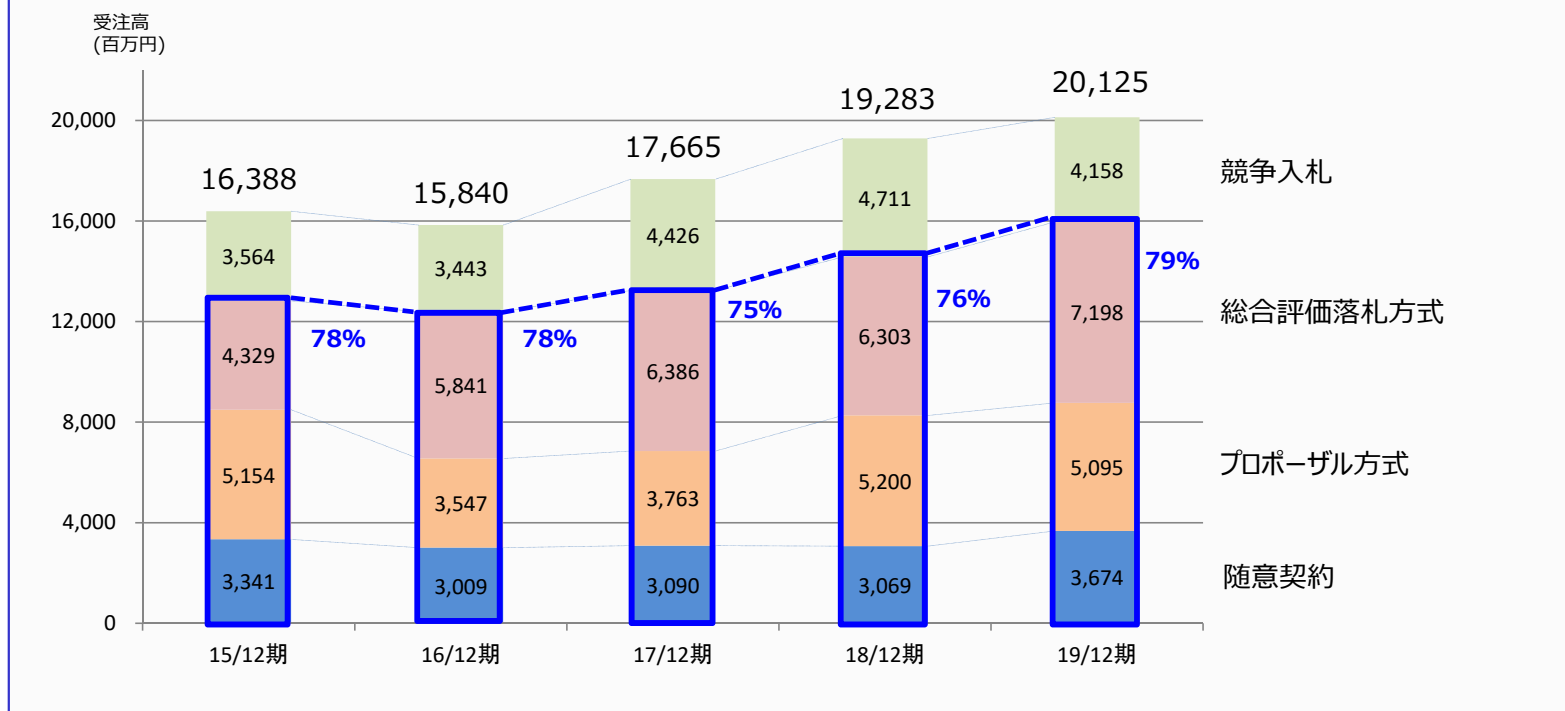


1-5. 受注形態別受注高(単体)の推移

技術力及び提案力向上・技術開発による高付加価値化・選択と集中

➡ プロポーザル・総合評価落札方式での受注を重視

◆ 技術力が重視される契約方式による受注額は全体の8割



1-6. いであの強み



国土環境研究所[神奈川]

- 数値予測モデル開発
- 生態系解析手法開発
- 環境調査・解析手法の開発



環境創造研究所[静岡]

- 淡水・海水を用いた生物の実験・研究
- 多種多様な化学物質の高精度な分析
- 有害化学物質のリスク評価と対策支援
- 調査機器、環境負荷低減装置の開発

技術・人的連携



食品・生命科学研究所[大阪]

- 食品の組成分析、農薬等の化学分析
- 食品中の化学物質等のリスク評価
- 創薬・診断分野の研究支援



亜熱帯環境研究所[沖縄]

- 亜熱帯地域の生態系の評価・保全などに関する生態試験、実験・研究
- 希少生物・有用生物の繁殖飼育

耐震解析計算センター

砂防センター

CIMセンター

インフラメンテナンス技術センター

AI総合推進室・事業開発本部

< 2. 2019年12月期決算のポイント >

2-1. 連結決算概要

2-2. セグメント別売上高の構成

2-3. 連結貸借対照表

2-1. 連結決算概要

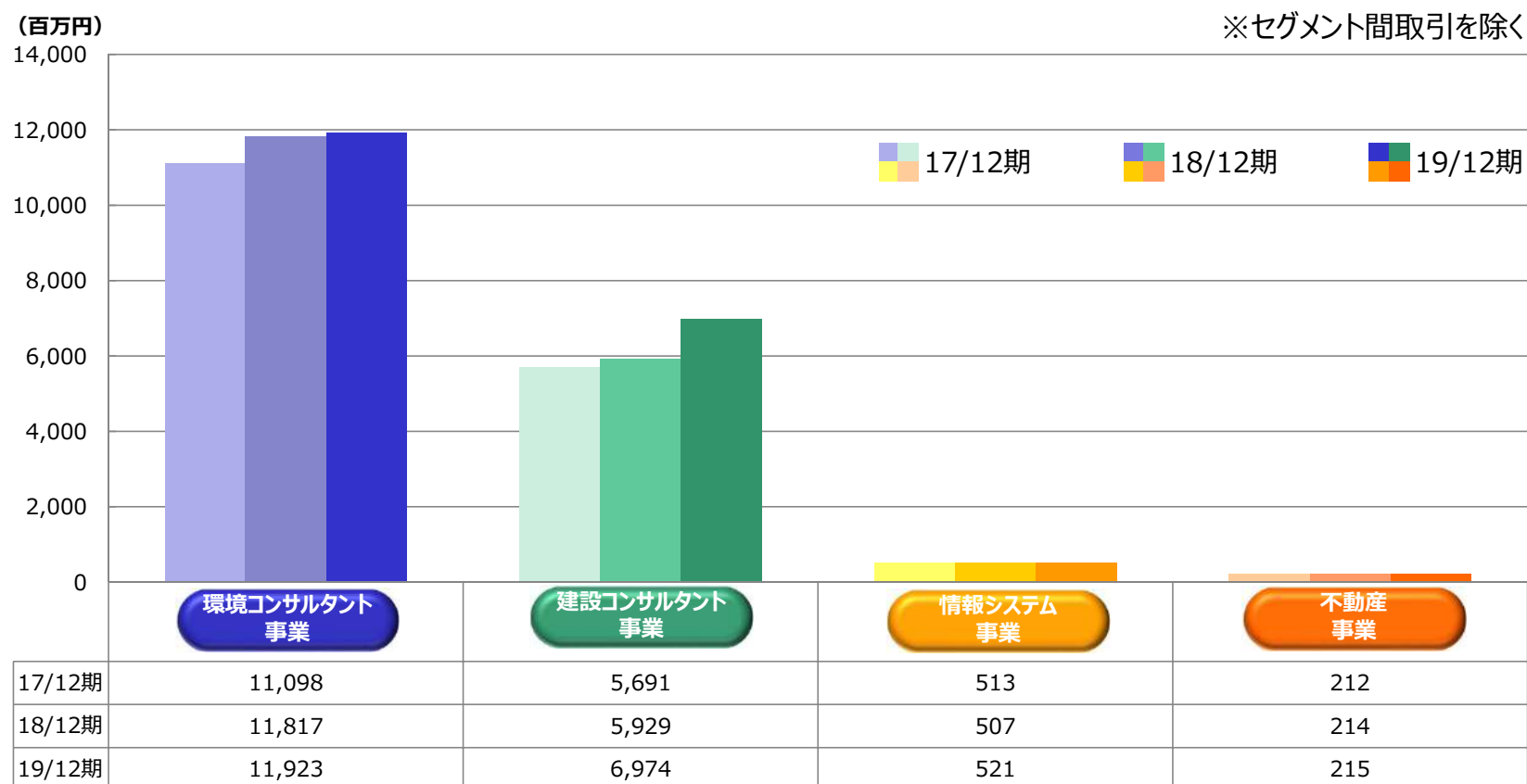
- ◆ 売上高は、大規模な海洋環境調査、土壌汚染対策業務、平成30年7月豪雨対応を含む防災・減災関連業務やインフラ施設の設計・維持管理関連業務等の売上が増加したことにより、前期比6.3%増
- ◆ 営業利益率は9.8%、親会社株主に帰属する当期純利益率は7.3%

(単位：百万円)

	17/12期	18/12期	19/12期	対前期 増減
売上高	17,515	18,468	19,634	↑ 1,165 (6.3%)
営業利益 (率)	1,151 (6.6%)	1,406 (7.6%)	1,932 (9.8%)	↑ 526 (37.4%)
経常利益 (率)	1,214 (6.9%)	1,449 (7.9%)	2,037 (10.4%)	↑ 587 (40.5%)
親会社株主に帰属する 当期純利益 (率)	798 (4.6%)	939 (5.1%)	1,440 (7.3%)	↑ 500 (53.2%)

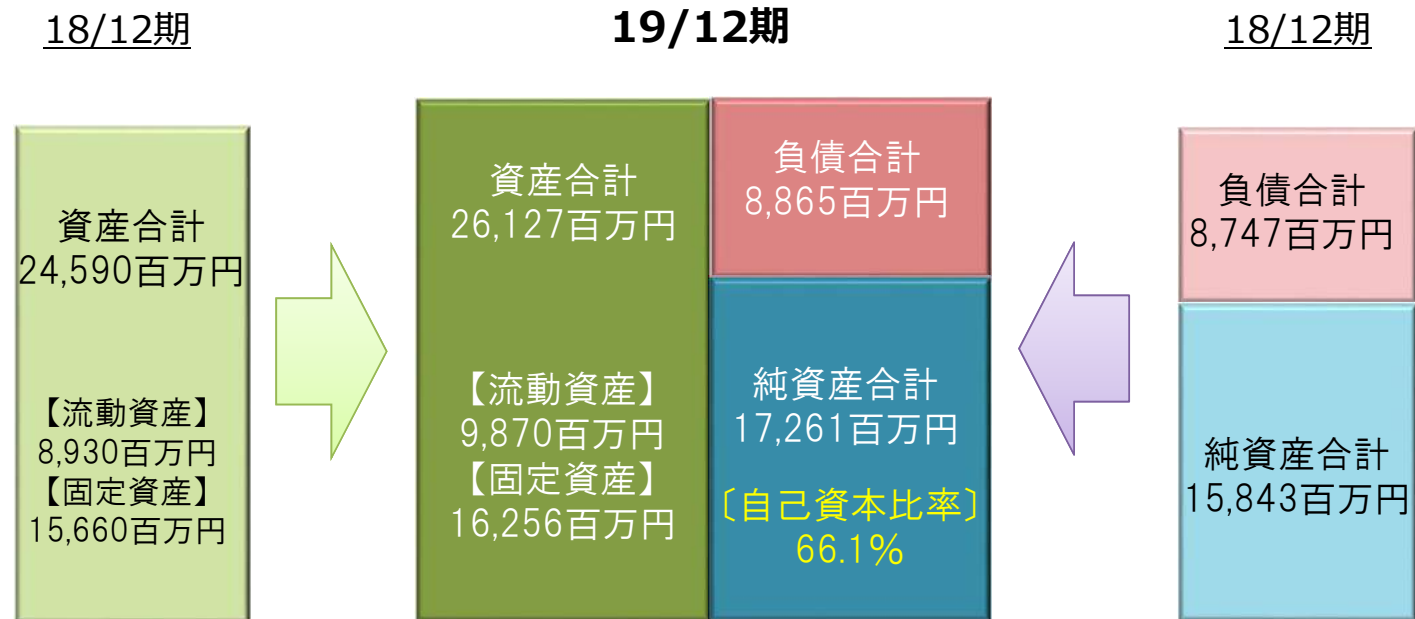
2-2. セグメント別売上高の構成

- ◆ 環境コンサルタント事業は1億5百万円増の119億2千3百万円（前期比0.9%増）
- ◆ 建設コンサルタント事業は10億4千5百万円増の69億7千4百万円（前期比17.6%増）



2-3. 連結貸借対照表

- ◆ 資産合計は26,127百万円に増加
- ◆ 自己資本比率は66.1%と1.7ポイント上昇



< 3. 2020年12月期の計画 >

3-1. 連結決算予想

3-2. 期首繰越受注残高の推移

3-3. 株主還元

3-1. 連結決算予想

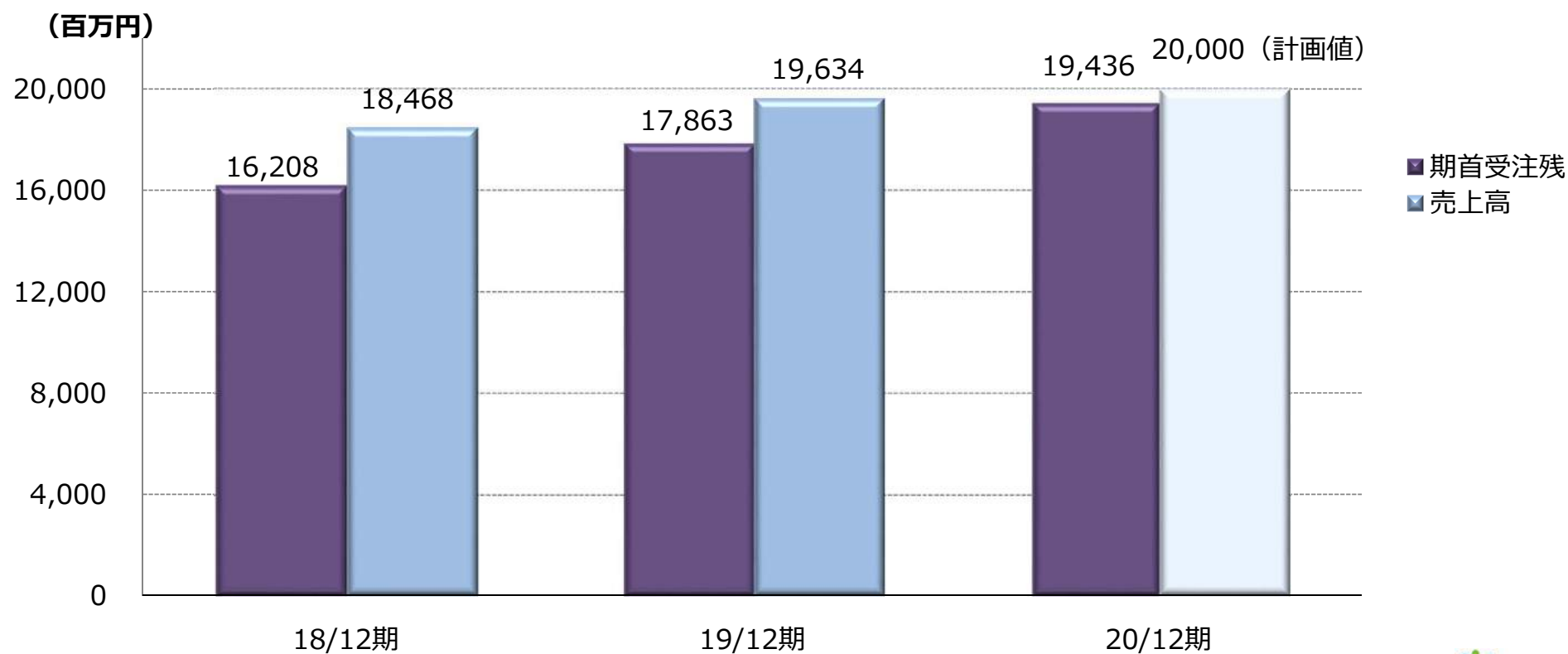
- ◆ 売上高は約3億6千万円増の200億円（前期比1.9%増）
- ◆ 営業利益は約1億1千万円増の20億5千万円（同6.1%増）
- ◆ 親会社株主に帰属する当期純利益は14億7千万円（同2.1%増）

（単位：百万円）

	18/12 実績	19/12 実績	20/12 予想	対前期 増減	
売上高	18,468	19,634	20,000	↑	366 (1.9%)
営業利益 (率)	1,406 (7.6%)	1,932 (9.8%)	2,050 (10.3%)	↑	118 (6.1%)
経常利益 (率)	1,449 (7.9%)	2,037 (10.4%)	2,100 (10.5%)	↑	63 (3.1%)
親会社株主に帰属する 当期純利益 (率)	939 (5.1%)	1,440 (7.3%)	1,470 (7.4%)	↑	30 (2.1%)

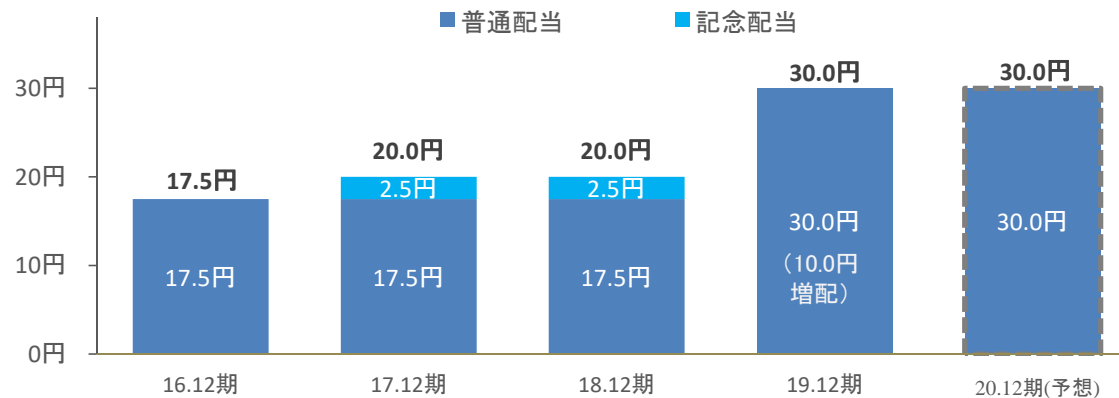
3-2. 期首繰越受注残高の推移

◆ 期首繰越受注残高は15億7千3百万円増の約194億円（前期比8.8%増）



3-3. 株主還元

- ◆ 19/12期の配当予定は30.0円（当初予定は20.0円→10.0円増配）
- ◆ 20/12期の配当予想は30.0円



- ◆ 株主優待制度
保有株式数に応じてクオカードを贈呈

保有株式数	クオカード贈呈額
100株～499株	1,000円
500株～999株	2,000円
1,000株以上	3,000円



<4. 第4次中期経営計画について>

- 4-1. 第4次中期経営計画(2019～2021)の概要
- 4-2. 第4次中期経営計画 1年目の成果
- 4-3. 第4次中期経営計画 ローリングの概要
- 4-4. 重点事業分野及び技術開発に関する取り組み事例

4-1. 第4次中期経営計画（2019～2021）の概要

イノベーションとマーケティングによる市場創生・新規事業の展開と海外事業の拡大

～本中期経営計画の位置付け～

- ・2023年（創立70周年）に**連結売上高200億円以上、当期純利益率5%（営業利益率10%程度）**を安定的に維持するためのさらなる基盤強化
- ・将来の新たな収益基盤構築のための準備期間

目標達成のための8つの重点課題

- ・ 新規事業の創出・新市場の開拓と技術開発の推進
- ・ イノベーションやマネジメントを担える人材の確保・育成
- ・ 基幹事業分野の強化（環境コンサルタント事業、建設コンサルタント事業、情報システム事業）
- ・ 海外事業の拡大と海外展開の推進
- ・ 民間・個人市場への展開、ものづくりの推進
- ・ IoT・ロボット・AIなど先端技術の利活用
- ・ 働き方改革の推進
- ・ 組織の一体化・効率化とガバナンス体制の強化

4-1. 第4次中期経営計画（2019～2021）の概要

第4次中期経営計画の目標の達成へ

重点事業分野

- ・防災・減災対策、国土強靱化、インフラ施設の戦略的維持管理
- ・環境リスク低減（土壌汚染・廃棄物対策、化学物質のリスク管理）
- ・健康長寿社会、安全・安心な社会（生命科学関連事業、ライフケア事業）
- ・資源・エネルギー確保支援（海洋調査・海洋資源開発関連、再生可能エネルギー関連）
- ・生物多様性・自然再生関連事業
- ・海外事業展開

技術開発と人材育成

- ・既存分野を強化し市場創生・新規事業に参入するための技術開発の推進、技術競争力の強化

・IoT・ロボット・AIなどの利活用

・イノベーションやマネジメントを担える人材の育成

社会的課題と市場環境

- ・社会的課題への対応
（SDGsの達成、Society5.0、健康長寿社会、安全・安心な社会、循環共生型社会）
- ・公共事業予算の安定・重点化（気候変動対策、防災・減災やインフラ老朽化対策）

4-2.第4次中期経営計画 1年目の成果 -技術開発の成果-

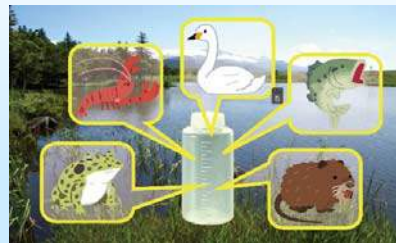
- ◆ 将来の新たな収益基盤構築のための準備期間として、今後大きな成果を期待できる技術開発、新規市場開拓に注力

市場創生・新規事業

- ・自動航行水中ロボット「YOUZAN」の開発
- ・環境DNAを活用した調査・分析技術の確立
- ・マイクロRNAメチル化測定による早期がん診断技術の開発
- ・AI総合推進室によるAI技術の普及と開発
- ・海外分野の新規顧客開拓(マイクロプラスチック関連)



「YOUZAN」



環境DNA



マイクロRNAメチル化測定

4-2.第4次中期経営計画 1年目の成果 -人材育成の成果-

イノベーションやマネジメントを担える人材育成の成果

- ◆ 研修により技術力を継続的に高め、高付加価値業務を多く受注（特定率の向上）
- ◆ 業務品質の向上により、顧客の信頼を獲得（業務評定点の向上）

利益率の向上に寄与する高付加価値業務獲得

● プロポーザル、総合評価特定率の向上

区分	2015	2016	2017	2018	2019
プロポーザル	31.9%	30.5%	30.0%	29.5%	34.8%
総合評価落札	22.1%	22.7%	22.2%	24.4%	27.7%

● 業務評定点の実績（国土交通省・内閣府発注業務）

区分	2014業務	2015業務	2016業務	2017業務	2018業務
平均	77.2	77.6	78.3	78.2	79.0

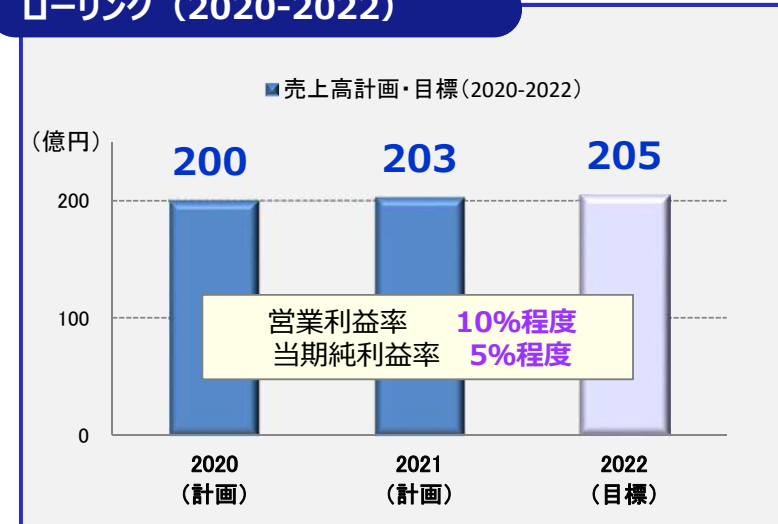
4-3.第4次中期経営計画 ローリングの概要

- ◆ 19/12期の売上高実績は196億円となり、当初計画を達成
- ◆ 20/12期以降、今後3年間に於ける数値目標のローリングを実施
- ◆ 23/12期目標である200億円を今期達成見込み

当初計画 (2019-2021)



ローリング (2020-2022)



ローリング (2020-2022)

第3次中期経営計画

第4次中期経営計画
(2019-2021)

第5次中期経営計画

4-4. 重点事業分野及び技術開発に関する取り組み事例

4-4-1. 防災・減災対策

4-4-2. インフラ整備

4-4-3. 海洋調査分野

4-4-4. 環境DNA分野

4-4-5. 地域循環共生圏の構築

4-4-6. 海外事業展開

4-4-7. AI技術の普及と開発

4-4-8. マイクロRNAメチル化測定による早期がん診断技術の開発

4-4-1. 防災・減災対策 – 令和元年台風第19号への対応

令和元年10月の台風第19号による千曲川災害への対応

- ◆ 台風第19号被害により全国の71河川140箇所では防が決壊するなどの災害が発生
- ◆ 発災直後に、[国土交通省等から支援要請を受け](#)、全国の職員や機材を確保し千曲川約140kmの堤防被災調査等を実施
- ◆ 災害発生を受けた「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」（全体事業費：約1,227億円）での治水対策の推進業務など、さらなる業務受注を目指す



堤防被災状況調査



千曲川堤防欠損（左岸104k付近）

4-4-2. インフラ整備 –安全・快適で環境にやさしいみちづくり

インフラ整備

環境施設帯を有する街路設計における住民参加型のみちづくり

- ◆ 人・自転車など多様な通行空間を確保し、沿道の住環境にやさしい道路整備が求められている
- ◆ 地域住民の意見を取り入れ、車両騒音や排気ガスから住環境を保護するため、植樹帯や歩行者通行帯などの「環境施設帯」を有する街路設計を実施
- ◆ 無電柱化、バリアフリー化、踏切の立体交差化など安全・快適な空間を創出



バリアフリー化・無電柱化された
快適な自転車・歩行者通行空間の整備



踏切を除去し、道路と鉄道を立体交差
歩行者のための横断歩道橋・エレベータを配備

4-4-3. 海洋調査分野における新たな技術

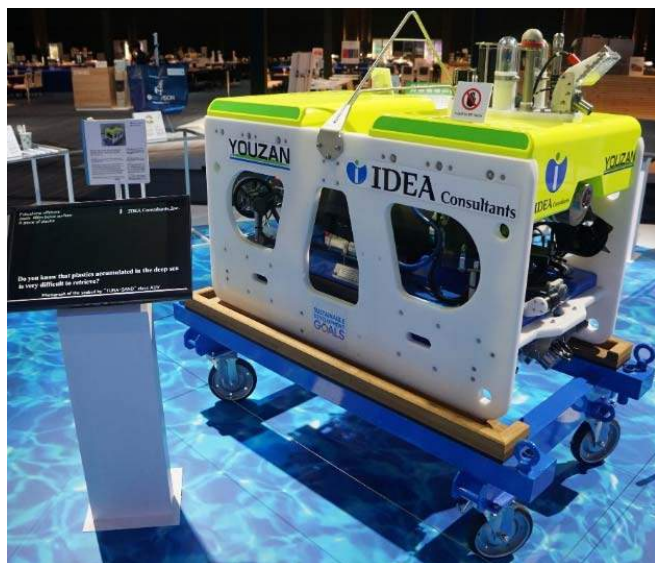
資源・エネルギー確保支援
(海洋調査・海洋資源開発関連)

「TUNA-SAND」級ホバリング型AUV「YOUZAN」(ようざん)の導入

- ◆ 水深2,000mの海底まで調査が可能な自律型的水中ロボット
- ◆ 東京大学生産技術研究所などから技術移転を受け、民間として初めて導入
- ◆ 海洋資源開発に伴う、環境アセスメントや海底環境調査、海洋プラごみ等の分野で活躍を期待

ようざん
YOUZAN

G20へ出展



1,000m海域での調査実施状況



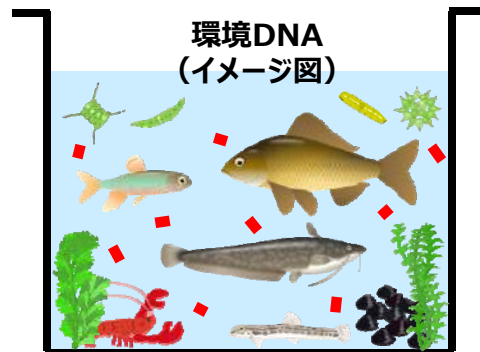
活用が期待される分野

分野	項目
環境	沿岸域での様々な環境調査ニーズに対応、外洋や深海での生態系、海洋プラごみ
水産	水産資源調査、漁場整備事業
インフラ維持管理	維持管理、ロボットによる点検技術の開発
海洋資源	資源開発にともなう環境影響評価、モニタリング調査
海洋再生エネルギー	適地選定、環境影響評価、モニタリング調査、維持管理

4-4-4. 環境DNA分野における調査・分析技術

環境DNA技術による魚類相調査

- ◆ 環境DNAとは、池や川などの水に含まれているDNA（細胞のかげら）から生息種を推定する技術
- ◆ 最先端の分析器（次世代シーケンサー）を導入し、自社で分析を実施



環境DNA調査の応用例

- ◆ 希少種の生息地把握や外来種の侵入監視等にも活用し新たな需要を開拓
- ◆ 現場での迅速な分析を可能にする分析方法を開発



4-4-5. 地域循環共生圏の構築

生物多様性・
自然再生関連事業

地域循環共生圏とは

「農山漁村」と「都市」それぞれが自立・分散型の社会を形成しつつ、地域特性に応じて資源を補完しあうことにより、地域の活力を最大限に発揮し、持続可能な社会を創造していく構想

「地域循環共生圏構築の手引き」の作成・公表

- ◆ 実証事業の成果を用いて、『地域循環共生圏』を具体的に構築するための手引きの作成を環境省より受託
- ◆ プロジェクトの進捗段階に応じた解説、事業戦略チェックリストを盛り込むなど、「実践的な手引き」として活用を見込む

地域循環共生圏プラットフォームの整備

- ◆ 今後は、環境省が目指すプラットフォームづくりを支援
- ◆ 環境コンサルタントとして、環境整備と情報整備の両面から全国的な地域循環共生圏の構築に貢献



(第五次環境基本計画より抜粋)

4-4-6. 海外事業展開 – 海洋ごみ対策に向けた国際協力への取り組み

海外事業展開

ASEAN地域での統合型海洋ごみ能力強化プロジェクト

- ◆ 全世界の海洋プラスチック流出量の約28%を占めるASEAN諸国において、様々な事業を通じて、陸域から海域までの統合的な海洋ごみ対策を支援

【事業の例】 ①国家行動計画策定、②発生源把握、③廃棄物管理、④モニタリング計画 など

- ◆ 2019年度はASEAN諸国における現状調査、課題把握を実施
- ◆ 今後は抽出した課題に基づき、具体的な協力内容の計画と実施に取り組む



バンコク市内の河川ごみ



バンコクで開催した
ワークショップの様子 (2019年10月)



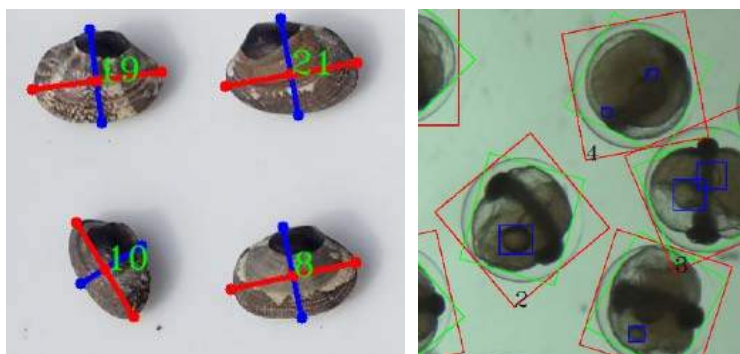
タイ国天然資源環境大臣による
ワークショップでの挨拶

4-4-7. AI総合推進室によるAI技術の普及と開発

IoT・ロボット・AIなどの利活用

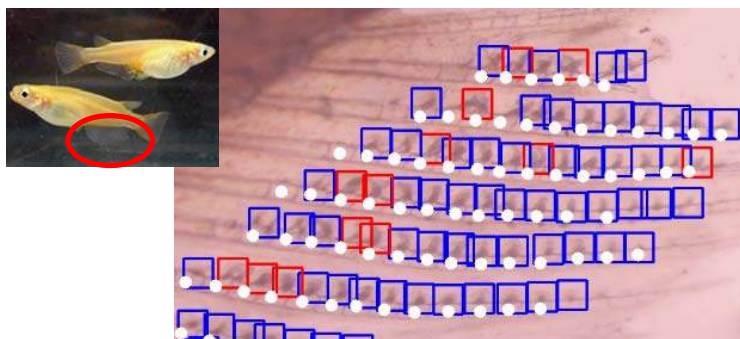
画像解析技術の開発

- ◆ アサリや魚卵の自動計測
- ◆ メダカのヒレを使った生体試験の異常値の自動検出等を開発



アサリの自動計測

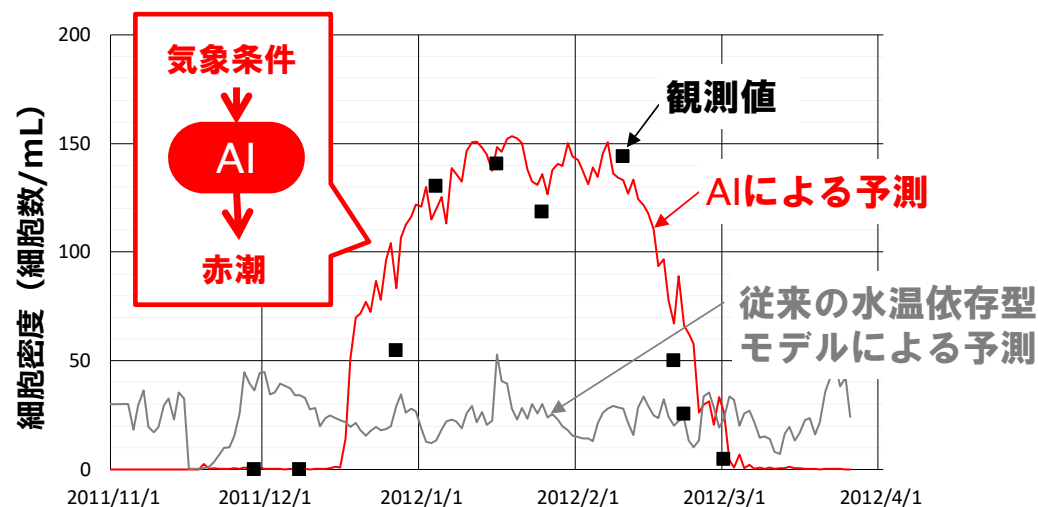
魚卵の自動計測



メダカのヒレを使った生体試験の異常値の検出
(赤が異常箇所)

予測技術への応用

- ◆ 赤潮予測システム構築
AIを用いることで、従来の水温依存型モデルより高い精度で赤潮の予測を実現



珪藻の一種による赤潮を予測した結果

普及・技術者育成

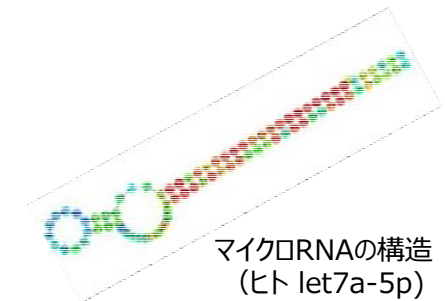
- ◆ 社員を大学へ派遣し、専門性の高いAIの高度技術者を育成
- ◆ AI技術を社内で広く活用するために、各部署で技術者を育成し、普及を促進

4-4-8.マイクロRNAメチル化測定による早期がん診断技術の開発

健康長寿社会、安全・安心な社会
(生命科学関連事業)

マイクロRNAとメチル化

- ◆ マイクロRNAは、血液や尿中に含まれるがんの遺伝子マーカー
- ◆ 本技術はマイクロRNAの「メチル化」に着目した点に独自性・新規性がある
- ◆ 特許出願準備中



早期膵臓がん診断法の将来性

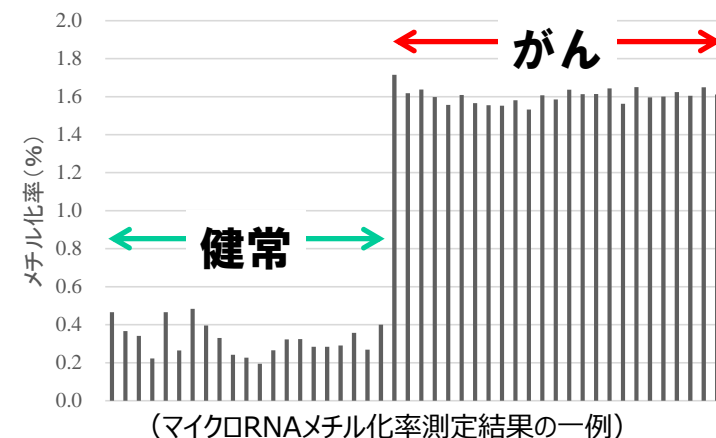
- ◆ 5年後生存率は約7%とされ、早期診断法が待望されている
- ◆ 本技術により早期発見、治療効果の向上、生存率の改善が期待される
- ◆ 膵臓がん以外のがん診断の可否、他の難治性がんへの応用を検討中

これまでは検出が困難だった
早期膵臓がんが検出可能

⇒がんの早期発見技術の確立、応用への期待

大阪大学大学院医学系研究科との共同研究の成果が
英国科学誌「Nature Communications (2019年8月29日)」
に掲載されました。

文献へのアクセスはこちらから <https://rdcu.be/bPO4k>



ご清聴 ありがとうございます



2018年2月に「くるみん」認定
7月に「えるぼし(三つ星)」認定



2020年3月に
「健康経営優良法人2020
(大規模法人部門)」認定

質疑応答